

2020年。「時の記念日」100周年！

明石市立天文科学館 館長 井上 毅

1. はじめに

6月10日は時の記念日です。明石市立天文科学館は1960年6月10日「時の記念日」に日本標準時子午線の真上に「時と宇宙の博物館」として開館しました。

毎年、「時の記念日」は、開館記念日として、無料開放され、記念品として子午線通過証を配布することなどから、長い行列ができその年一番の賑わいとなります。また時の記念日の時期には明石市内で様々なイベントが開催され、市民にとっては大変なじみの深い記念日となっています。全国各地で時の記念日の行事が行われています。祝日のない6月に新たに祝日を設けるなら「時の記念日」がよいのではないか、という声もあります。一方で、「時の記念日？そんな記念日あったかな？」と時に意識していない人々も多くいます。

当館では、時のまち・明石という地域で根付いている記念日をテーマに、学術的な調査や市民向けの事業を展開してきましたので、本発表で報告します。

2. 時の記念日の誕生

時の記念日は、日本で最初に時を知らせた故事に由来しています。日本書紀には671年6月10日、天智天皇が漏刻（水時計）で時を知らせた記録があります。時の記念日が定まったのは1920年のこと。この年の5月16日から7月4日まで、東京お茶の水の教育博物館（現在の国立科学博物館の前身）にて開催された、「時」展覧会が大盛況であったことが契機となりました。

東京教育博物館は、棚橋源太郎が館長を務めた博物館です。明治の初めに作られ、元々は学校教育のための教材を研究し提供していましたが、大正期になると大衆の教育を強く意識した通俗教育（現在の言葉で社会教育）を意識した展覧会を行うようになりました。これは現在、日本全国の博物館で行われている特別展の源流です。大正5年の「コレラ病予防通俗展覧会」をはじめとし、「食品衛生経済展覧会（同7年）」、「廃物利用展覧会（同7年）」、「災害防止展覧会（同8年）」、「生活改善展覧会（同8年）」など一連の展覧会は科学知識の普及と生活の改善を目的とし、社会的反響は大きいものでした。展覧会が契機となり、「生活改善同盟会」が発足。会長に伊藤博邦、役員に渋沢栄一、棚橋源太郎らが加わり、政界、財界、教育界の力が結集した団体となりました。生活改善同盟会は日常の生活改善の10項目を挙げ実践と研究を行いま

したが、第一に「時間を正確に守ること」を掲げました。

大正9年に文部省が「時」展覧会を企画すると、同会は大いに賛同し、出品の援助をおこないました。大正9（1920）年5月16日（日）から時展覧会が実施されました。出品は、東京天文台、通信博物館、海軍水路部、中央气象台などの国立機関、東京帝国大学、岸和田中学校、など教育機関、その他団体個人など数十に及び、内容はかつてない充実したものになりました。展覧会を見た人から口コミで展覧会場は連日大盛況となりました。当初は1カ月の予定だった展覧会の会期を延長し、約7週間、43日間にわたり開催されました。時展覧会は通俗展覧会としては過去最高となる入場者22万人を動員しました。これは日本の博物館の歴史の中でも画期的な出来事でした。大成功をおさめた時展覧会の内容は、日本天文学会の天文月報に3カ月にわたり大変詳しく紹介されたほか、一般向けには、南光社が「誌上時展覧会」という書籍を発行、展覧会を見学できなかった遠隔地の人々もこれを読んで大いに楽しんだそうです。

大成功をおさめた時展覧会の会期中に、セレモニーを実施して時間尊重の宣伝を行うことを目的に、時の記念日が提案されました。主催者の間でこの議論が起きると、生活改善同盟会は即座に賛同し、結果としてこの記念日は同会が実施することになりました。

最初の時の記念日。時間尊重の宣伝として当日及びその前日に写真のような印刷物を5万枚、銀座、日本橋、日比谷、上野、浅草等、東京市内目貫の場所10か所で一般市民に配布されました。ビラを配布したのは日本女子商業学校、淑徳女学校、東洋高等女学校、千代田高等女学校、東京家政女学校、芝中学校の生徒と、深川小学校夫人同窓会及び東京少年団団員でした。また、記念日の当日はビラを配ると同時に市内の浅草、上野、須田町、日本橋、銀座の五か所で天文台から持ち出した標準時計（クロノメーター）を据え付け、通行人に「正しい時刻にお合わせ下さい」とすすめて各自所有の時計を合わせさせました。深川小学校の夫人同窓会会員、芝中学校の生徒、東京少年団団員が天文台の河合技手のほかの指導の下に主としてこの役にあたりました。

時の記念日の正午には東京全市が正午の大砲が鳴り、工場や事務所の汽笛が鳴り、ニコライ堂の鐘が打ち鳴らされ、しばらくの間、響きの都になったそうです。また、歌舞伎役者阪東彦三郎が自家用車に標準時計と望遠鏡を積み込み、午前8時半から二時間東京天文台の河合技師と一緒に市内の主な大時計を点検し、遅れ進みを報告しています。時の記念日の催しは各地で行われ、戦後にも続きました。時の記念日は、時間に正確といわれる日本人の時刻意識にも大いに影響があったと考えられます。明石市立天文科学館が1960年の時の記念日に開館したのも一連の流れといえるでしょう。昨今の数多くある記念日とは一味違う、1世紀の歴史を持つ記念日なのです。

3. 「時の記念日」の調査と教育活動

先に記載した通り、時の記念日には、明石市立天文科学館は開館記念の無料開放が行われ、子午線通過証明書を配布しています。また、明石市では、時の記念日から1週間を時のウィークとよび、特に期間内の日曜日には市内の大きな公園（明石公園）にて、メインデーのイベントが開催されます。市民に根付いたイベントです。時の記念日には各地でイベントが行われています。当館の調べでは表のような行事があることがわかっています。

行事名	開催地	概要
時のウィーク (6/10～16)	兵庫県 明石市	6/10 子午線通過記念証配布など。 市内各地でイベント多数
近江神宮漏刻祭	滋賀県 大津市	時計奉納の神事
大宰府における 時の記念日行事	福岡県 太宰府市	時計を持たずに決められた時間集まる
城山の鐘まつり	宮崎県 延岡市	7代目鐘守の夫婦に感謝する。 市民や子どもによる歌披露など
掛川城御殿 太鼓打ち鳴らし式	静岡県 掛川市	正午に太鼓を打ち鳴らす。 子どもも参加。1957年から続く
土浦城址 刻（とき）の太鼓 打鳴し（6/10～12）	茨城県 土浦市	朝夕6時に太鼓を打つ。 太鼓は2000年、約130年ぶりに復活
西順寺 時の太鼓頭彰	岐阜県 北方町	計6回太鼓を打つ。古謡北方踊り披露、子どもも参加
丸亀城 時太鼓打ち鳴らし式	香川県 丸亀市	30分おきに打ち鳴らし。 11時半からセレモニー。一般人の体験可

このように、ローカルな形で根付いている「時の記念日」ですが、誕生には先に紹介したように、博物館の教育活動が深くかかわっていたことに関心を向ける人はあまりいない状況です。長く影響を与え続けている「時の記念日」について、当館では博物館の学芸的な活動として調査や教育活動を行ってきました。

(1) 国立科学博物館連携事業「科博コラボ・ミュージアム」による特別展

地域の博物館等への支援並びに地域の自然科学の振興を図るために、国立科学博物館と全国各地の博物館が連携して、それぞれの地域の自然、文化などに関連したテーマで展覧会、講演会、体験教室などの博物館活動を実施する取り組みです。明石市立天文科学館では2010年に開館50周年を記念し、「時」展覧会をテーマとした特別展を国立科学博物館連携事業「科博コラボ・ミュージアム」により実施しました。国立天文台などの協力も得て、当時の出品物や同等の資料を展示し、1920年の「時」展覧会の盛況を紹介しました。この展

示を調査する過程で、当時の資料がどこにあるのか相当数が不明であることが判明しました。関東大震災や第二次世界大戦の空襲などの影響が大きいと思われます。一方で、目録を丁寧に調べれば、同定も可能であることもわかりました。この事業が時の記念日の調査開始の直接のきっかけとなりました。



(2) 時の記念日の調査

「時」展覧会については、佐々木勝浩氏（国立科学博物館名誉館員）が先行研究を行っていました。そこで、筆者は佐々木氏と協力し、大正時代当時の資料の現状調査を行いました。この調査は2014年に一般財団法人全国科学博物館振興財団の活動等助成事業で「時の記念日の研究」のテーマとして採択されました。こうして、「時」展覧会に出品されていた資料のうち現存する資料の調査をすすめることができ、それまで知られていなかった資料の発見を行うことができました。その成果は2015年に佐々木氏と連名で国立科学博物館研究報告E類として発表しました。

その内容は以下に公開されています。

http://www.am12.jp/gakugei/toki-kinenbi/pdf/BNMNS_E38_23-34.pdf



(3) 時の記念日のシンポジウム

2014年には、「時の記念日シンポジウム」を開催しました。これは2020年が時の記念日の100周年にあたることから、それに向けた情報発信や提言を目的としたものです。佐々木勝浩氏が基調講演を、情報通信研究機構（NICT）理事の細川瑞彦氏、国立天文台の縣秀彦氏、セイコーミュージアムの渡邊淳氏が登壇し、時の記念日100周年に向けた講演やパネルディスカッションを行いました。多くの市民には時の記念日の学術的な意義を知ってもらう契機になったようです。このネットワークは現在も続いていて、時の記念日100周年に向けた企



画を検討する際の核になっています。

(4) 時の記念日「漏刻祭再現」

時の記念日は全国で行事が行われています。2015年には、天智天皇を祀る近江神宮で例年行われている漏刻祭の再現を、当館プラネタリウムで開催しました。開催にあたり大津市の環境協会と連携を行いました。こうした取り組みは、科学博物館の枠を飛び越えて、全国各地との様々な団体とのネットワークを深めることにつながっています。



(5) 時の記念日の歌の調査

1920年に時の記念日が制定されたことを受け、小学校の唱歌として「時」に関する歌が作られました。これは、当館の取り組みを新聞記事で読んだ90歳代の女性からの情報提要によるものがきっかけで調査を行いました。調査の結果、時の記念日の歌は、当時一般公募された時に関する歌詞の優秀作品に、大阪音楽大学の創始者永井幸次氏が作曲したものであることが判明し、その楽譜が同大の博物館に保存されていることが判明しました。2016年には楽譜と歌詞をプロの歌手に再現してもらい、当館のウェブサイトで公開しました。

(6) NICTとの連携

2018年には時の記念日をアピールするポスターを作成し、全国の関係施設に配布しました。2018年の時の記念日には情報通信研究機構(NICT)とのコラボレーションを行いました。NICTは日本標準時の発信を行っています。同研究機構時空研究室の井戸室長と当館のオリジナルキャラクター「シゴセンジャー」が一緒に日本標準時についてクイズするイベントをも行いました。NICTとは折に触れコラボイベントを行っています。



4. 2020年「時の記念日」100周年に向けて

2020年は時の記念日100周年になります。この記念の年にできれば当館だけでなく、全国的な展開を目指したいと考え、関係各所と連携を図ってきました。現在、私達が準備を進めている企画が「時」展覧会2020（仮称）です。会場は国立科学博物館、会期は4月～7月の予定です。100年ぶりの「時」展覧会が東京教育博物館の流れをくむ国立科学博物館で開催されることは大変意義深いと考えています。「時」の過去・現在・未来をテーマとし、①100年前の「時」展覧会の紹介 ②100年間の時計技術の発展の歴史 ③時の研究最前線 について、各関係機関と連携し展示を行います。明石市立天文科学館でも同期間に同じテーマで企画展を実施する予定です。企画展が記録として残り100年後にも再び22世紀版の「時」展覧会が開催されるかもしれません。想像するだけでも楽しくなってきます。

なお、製作する資料や展示グラフィックはPDFとして公開し、全国の博物館などで活用してもらい、全国一斉の「時」展覧会の実現につなげたいと考えています。時に関する資料は多岐にわたるため、各地でユニークな企画展が実施されることを願っています。